

2023年度

大学院文学研究科博士課程前期2年の課程入学試験

(秋期・社会人特別選抜) 問題

筆記試験 日本文学 専攻分野

試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけない。

受験記号番号	
--------	--

成	
績	

2023年度

大学院文学研究科博士課程前期2年の課程入学試験

(秋期・社会人特別選抜) 問題

筆記試験 (日 本 文 学 専攻分野)

(注) ① 第1問の解答は、答案紙十七行程度を標準とする。

② 第2問 1から3までの解答は、それぞれ答案紙七行程度を標準とする。

③ 第1問・第2問・第3問ともに縦書きで解答する。

1、大学院で自身が行おうと考えている研究のテーマ、目的、方法、意義を述べよ。

受験記号番号	
--------	--

二、次の事項について説明せよ。

1 日本文学史における長歌

2 『源氏物語』の「かかやゝ日の宮」

3 『源平盛衰記』

4 連歌と俳諧

5 関東大震災（大正一二年）と文学の関係

三、次の文章の全文を口語訳せよ。

これも今は昔、「月の、大將星を犯す」といふ勅^{かんもん}文を奉れり。よりて、近衛大將、重く慎み給ふべしとて、小野宮右大將は、さまざまの御祈りどもありて、春日社、山階^{やましなでら}寺などにも、御祈りあまたせらる。その時の左大將は、枇杷^{ひは}左大將仲平と申す人にてぞおはしける。東大寺の法蔵僧都は、この左大將の御祈りの師なり。さだめて御祈りのことありなんと待つに、音もし給はねば、おほつかなさに京に上りて、枇杷殿に参りぬ。殿、あひ給ひて、「何事にて上られたるぞ」とのたまくば、僧都申しけるやう、「奈良にてうけたまはれば、左右大將慎み給ふべしと、天文博士^{かみ}勘^{かん}く申したりとて、右大將殿は、春日社、山階寺などに、御祈りさまざまに候くば、殿よりもさだめて候ひなと思ひ給くて、案内つかうまつるに、さることあらけたまはらずと、皆申し候くば、おほつかなく思ひ給くて参り候ひつるなり。なほ御祈り候はんこそよく候はめ」と申しければ、左大將のたまふやう、「尤^{もつと}もしかるべきことなり。それどおのが思ふは、大將の慎むべしと申すなるに、おのれも慎まば、右大將のために悪しうもこそあれ。かの大將は^{きん}すもかしこくいますかり。年も若し。おほやけにつかうまつるべき人なり。おのれにおきては、させることもなし。年も老いたり。いかにもなれ、何^{なん}条^{じょう}こともあらんと思へば祈らぬなり」とのたまひければ、僧都、ほろほろとうち泣きて、「百千の御祈りにまゐるらん。この御心の定^{おきま}にては、このおそりさらに候はじ」と言ひてまかでぬ。

されば、実にことなくて、大臣になりて、七十余までなんおはしける。

『宇治拾遺物語』

(注) 小野宮右大將 — 藤原実頼。 山階寺 — 興福寺。 枇杷左大將仲平 — 藤原仲平。

〔口述〕